

# 石鳥谷町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

在京石鳥谷町人会だより

連絡所

在京花巻ふるさと会事務所内  
〒102-0072 東京都千代田区飯田  
橋 4-4-8 東京中央ビル 603 号室

TEL 03-6256-8082

FAX 03-6526-8083

事務局 〒187-0031 東京都小平  
市小川東町 1817-39 大竹雅夫方

TEL : FAX 042-332-3025

あいさつ



在京石鳥谷町人会  
会長 高橋 弘美

会員の皆様こんにちは。高橋弘美  
でございます。

皆様におかれましてはお健やかに  
お過ごしのこととお慶び申し上げま  
す。

平成 29 年の秋号となる「町人会だ  
より」をお届けするにあたって、平  
素より皆様から寄せられたご支援、  
ご協力に対しまして厚く御礼を申し  
上げます。

さて平成 29 年の夏はどのよう  
にお過ごしでしたでしょうか。昨年は  
全国的な猛暑の夏だったのですが、  
今年は一転して北日本や東日本で記  
録的な日照不足や長雨に見舞われた  
夏となりました。東京では 8 月の日  
照時間が 83・7 時間で観測史上最短  
を記録したとのこと。更に仙台では  
8 月 26 日までの 30 日間での日照時  
間は、46・6 時間と平年の 3 分の 1

ほどだったとのことでした。

一方 6 月まで私が暮らしていた関  
西では連日の猛暑日となり、「大阪の  
人は大変だねえ」とまるで避暑地  
からのメッセーシのように友人に電  
話したりもしました。しかし涼しさ  
も度が過ぎると困ったこともおき、  
8 月末ごろでは野菜の値段が高騰  
し、さらにコメの作柄にも懸念が表  
明されるなど、このバランスの悪さ  
はいったい何だろうと見上げたそ  
空を北朝鮮のミサイルが飛んでい  
たというニュースが伝わるに至って  
は、世界の中でいろいろなバランス  
も保てなくなってきたのかな、  
とちょっと不安がよぎった夏でもあ  
りました。

わたくしごとで大変恐縮ですが先  
に記した通り 6 月でサラリーマン  
生活を終え、6 年間単身赴任してい  
た大阪も引き払い千葉の自宅に戻っ  
てきました。身軽になったこともあ  
りお盆の時期をはさみ 2 週間ほど  
石鳥谷の実家にいつてきました。目  
的は実家の関係もあつたのですが、  
いつも通り協賛頂いている企業の皆  
様へのご挨拶と石鳥谷まつり(花  
火大会)への参加、そして今年は生ま  
れて初めて大迫あんどんまつりを見

学してまいりました。今年は「宿場  
町おはさま 400 年記念事業」  
のイベントとして「弘前ねぶたまつ  
り」との共演も催され多くの人々で  
賑わっており、文字通りのおまつり  
気分を堪能してまいりました。

これまでは石鳥谷や周辺市町村のイ  
ベントや記念行事などへはほとんど  
参加の機会はなかったのですが、こ  
れからはふるさととの交流を少しで  
も深められるようちよくちよく訪問  
を重ねていきたいと思っています。

さてそのふるさととの交流ですが  
大本命はなんといっても在京石鳥谷  
町人会総会・親睦交流会です。今年  
は設立 29 周年となります。親睦交流  
会での目玉の郷土芸能は大瀬川地区  
の神楽の皆さんがお越し下さること  
になっております。また今年もふる  
さと協賛企業の皆様からのご支援の  
品々を頂戴することになっておりま  
す。本当にありがたいことでありま  
す。是非会員の皆様には多くの方の  
ご出席を頂いて、ふるさとからのご  
支援に感謝しつつ会員相互の親睦も  
深めて頂きたいと思っております。

これからも幹事一同頑張って参り  
ますので、引き続き皆様のご協力、  
ご支援をよろしくお願い申し上げます。



ふなやと復興支援ツアー  
石島谷まつり

有田 睦子

花巻市湯口出身

9月8〜10日復興支援ツアーに六  
回目の参加をしました。

一日目在京ふるさと会傘下の四つの  
ふるさと会員が定刻通りに集合しま  
したので東京を出発しました。大型  
バス定員いっぱい補助席使用の大  
団体。それを仕切るのは今年は石島  
谷町人会の高橋さん、大竹さん含む  
町人会の役員さん。当日の天候は晴  
天とは言えないけど、丁度よい旅行  
日和。バスの中はなごやか、方言ま  
じりでもつ岩手の話でもちきり。昼  
食は干葉の名物創作寿司のお弁当。  
早朝の出発なのに50数人分の用意  
に皆感謝しながらおいしく頂きまし  
た。風過ぎ松島到着。船を貸し切り  
おだやかな海に浮かぶ数々の島々を  
遊覧の後、石巻市の日和山公園へ。  
ここは高台にあり石巻港が見渡せま  
した。港は津波の影響でコンクリー  
トでまっ平らになっている所や、ま  
だ工事中の所が多くありました。高  
台には住居があるのですが、海に近

い方は殆ど住居がありませんでした。  
公園にある昔の写真と現在の写真と  
くらべると津波のすごかった事が分  
かりました。

一日目のホテル「南三陸ホテル海  
洋」は天皇陛下がお泊りになられた  
と言う海の見える大きなホテルでし  
た。三陸の海の幸で宴会が始まり一  
日の疲れと大きな窓の海の見える大  
浴場でゆっくりとし、翌朝真っ赤な  
太陽が海から昇るのを見ると、私達  
の旅行を見守ってくれている様なす  
ばらしい景色でした。

二日目の朝ホテルを出発し岩手の  
海側から内陸へと車を走らせ厳美溪  
に到着。ゴツゴツした岩肌を向こう  
岸よりケーブルの様に吊るした籠の  
中にお金を入れるとお茶とおだんご  
が届くという、名物の「カッコーだ  
んご」を全員で頂きました。厳美の  
すばらしい景色を後にして一路花巻  
へ到着。名物「わんこそば」を太鼓  
の合図で頂きました。私は22杯頂き  
ました。新渡戸記念館では特別に「  
かぐら」の奉納がありました。

それから石島谷の祭り見学。花巻  
市長上田様の挨拶に迎えられて、祭  
りの山車が五台ある内の三台を私た  
ちの特別席の前で引き回して見せ

て頂きました。大きな台車に樹木や  
花がざり。そこに美しく着飾った藤  
娘の人形、それぞれの台車はとても  
美しい光景でした。

いつもは雨にたたられるという祭り  
が今年は好天で、東京の私達が天気  
をつれて来てくれたと皆に喜ばれま  
した。

二日目の宿は私の出身湯口の「渡  
り温泉」静かな旅館、豪華な御料理、  
カラオケを楽しみ和やかな一日が終  
了。

三日目アイスアリーナ、道の駅で  
南部杜氏の伝承館、民俗資料館など  
を見て回り、機織りの体験もさせて  
頂き、田んぼアートを見たりと、も  
り沢山の旅でした。

それからみんなで買い物。これはい  
つもと同じ車のトランクがいっぱい  
になるほどの土産を詰め込んで・・・  
復興支援の旅でした。

行動が計画通りに出来た事は、スタ  
ッフ皆様の入念な打ち合わせがあっ  
た事と感動致しました。御苦労様。  
来年の復興支援ツアーまで元気で参  
加が出来る様に心がけたいと思っ  
ております。楽しい旅をありがとう。



松島湾諸島で最も有名な仁王島



2017/09/08 13:35





在京花巻ふるさと会  
 第7回ふるさと復興支援ツアー  
 松島海岸

2017.09.08 14:26



水平線の彼方より昇る朝日の出に感激



フラダンスに会場の雰囲気も一層和む



第7回ふるさと復興支援ツアー

2017.09.09 08:05





花巻名物“わんこそば”  
何杯おかわりしたのか？



中組による“音頭上げ”

壮観溢れる武者人形 《中組の山車》



《下組の山車》



《上若連の山車》





第7回ふるさと復興支援ツアー  
石鳥谷祭り



貴重な機織り体験をしました



醸造工程の道具の数々

第三十二回  
在京花巻人のつどいに参加して

川村 三郎

石鳥谷好地出身

7月8日に開催された花巻人のつどいに参加し、花巻出身の方々とお目に掛かり懇談出来る事が楽しみでした。

会場に少し遅れて入りましたが、在京花巻人の皆さん、ふるさと花巻よりのご来賓の方々がいつもの笑顔でほっとしました。開会の宣言と共に、瀬川会長の挨拶を皮切りに総会の部が始まりました。

総会の部

平成28年度の決算、事業報告、平成29年度予算、事業計画の発表がつつがなく進みました。

交流会の部

来賓挨拶で恒例になっている上田市長の挨拶では、ふるさとの近況が報告されましたが、さらに2020年の東京オリンピックで競技施設の使用要請があった事を発表され、我がふるさとでもオリンピックが開催されるんだと思うと、ふるさとで応援出来る楽しみが増してきました。

アトラクションの部

東和町友会の千葉政光さんの津軽三味線と徳田絹江さんの民謡が共演され、話では伺っていましたが千葉さんの迫力は想像以上で、何時もにこやかな表情からは想像出来ず大層驚きましたし感動いたしました。

賢治を歌うの部

花巻人のつどい恒例で及川 慎様指導の下「種山ヶ原、星めぐりの歌、精神歌」三曲を会場の皆さんで歌いました。

又、「話題」という部で地元花巻に新幹線が停まる駅を作る、という事の為に奔走した人達の戦いを描いた映画「ネクタイを締めた百姓一揆」が紹介されました。是非ふるさと会がこの映画会を催して頂きたいなと思いました。

今回の花巻人のつどいは、たまたまある人より教えて頂いた「お酒」を持ち込む機会を得、一部の人達ではありますが大いに盛り上がりました。

それは先程歌った賢治の歌「精神歌」の歌詞に書かれている「ヒカリノミチ」を銘柄にしたお酒です。由来は宮澤賢治先生が教鞭を執っていた岩手県立花巻農業高校(前身 岩手



県立稗貫農業学校の生徒さん達が、「自分たちが作った米で自分達が大人になった時に飲める酒が出来るのだろうか」と、いう相談を酒造会社に持ち込み、先生と共に3年を掛けていろいろ教わり出来た米「ひとめぼれ」を使い出来たお酒だそうです。このお酒は数量限定ですので地元でもあまり知られておらず、依頼が有りたまたま取り寄せた所、それを知り是非頂きたいと請われて持ち込んだ次第でした。

とても話題性のあるお酒だと思いますし、お米と言う農学校では当たり前の研究材料でしょうが、この米が持っている可能性は無限に有り、例えばこのお酒を作るのに必要な麹に必要菌、菌による発酵製品、真剣にいろんな可能性に情熱を傾ける花農の生徒さん達を是非応援したいと思いました。

そんなことを感じさせ、思わせてくれた第32回在京花巻人のつどいでした。



花巻人会瀬川会長のご挨拶



須田絹江さん 千葉政光さん



◎後藤 榮さん(初代石鳥谷町人会会長は平成29年春の叙勲において)

て、長年公務に従事され功績を挙げた方に授与される「瑞宝双光章」を受章されました。更に後藤さんは「花巻市活力あるまちづくり表彰2017」において「長年にわたり、市内の児童福祉事業に対し寄付を行い、花巻市の活力あるまちづくりに貢献された」ことで表彰され感謝状が授与されました。ここに賞状と勲章のお写真をご紹介申し上げます。



花巻市より感謝状授与

◎佐藤 忠男さん(現石鳥谷町人会副会長は「29年度花巻市感謝状制度」において「市立石鳥谷小学校及び新堀小学校への教育備品購入費用を寄付され学校教育の振興に多大な貢献をされた」ことにより表彰され感謝状が授与されました。



この度の叙勲、表彰を在京石鳥谷町人会のたいなる誇りとして広く会員の皆様にお知らせ致します。誠にありがとうございます。



「稗貫氏」のルーツ？を訪ねて  
埼玉県熊谷市・常光院

川村政義（新堀出身）



稗貫氏のルーツと言われている中条氏館跡

川村 政義

新堀出身

旧稗貫郡内には「稗貫氏」ゆかりの城館が14ヶ所あったそうです。しかし、豊臣秀吉の「奥州仕置」のあとほとんどが破却されましたが、「鳥谷ヶ崎城」と「新堀城」の二つだけは免れたようです。その、破却されずにすんだという「新堀城跡」を見学した記憶があります。それは新堀中学校1年生の時ですから、50数年前のことになります。友人である岡

田幸重君の家に遊びに行った折、彼の家の所有地である裏山に案内され、跡地と言われる場所に大きな石があったことを覚えていました。城主については後で知ったことですが、「新堀作兵衛」という稗貫氏と縁続きの人物であったようです。『石鳥谷町史上巻』によれば、稗貫氏没落後南部氏に仕え、その後、「北方三戸」かに居住して新堀には復帰しなかった旨の記述がありました。その後の消息についてはインターネットで調べたところ、青森県三戸郡南部町森越字上小路に構えていた「陸奥森ノ越館」の城主として「新堀作兵衛」という

同一名の人物の存在したことが記載されておりました。『石鳥谷町史』の記述とも照らし合わせると多分同じ人物なのではないかと推測されます。このことについては、また調べてみようと思っています。

昨年11月の秋晴れの日曜日、「稗貫氏」のルーツに関し、最近の研究成果として有力視されている埼玉県熊谷市上中条にある「中条氏館跡」を訪ねました。事前の調べで最寄りのJR熊谷駅からバスを利用して15分程度であることはわかっていた

ましたが、最近運動不足であることも自覚していましたし、せっかく初めての地を訪れるので、目的地までの周辺についてもゆっくり見てみたいという思いにかられ、思い切って片道8キロの行程をウォーキングしました。時間的には1時間半程度だったでしょうか、あまりにも爽やかな天候であったためか、ほとんど疲れは感じませんでした。

「館跡」は、現在、「龍智山毘盧遮那寺常光院」という天台宗別格本山の寺院となっており、寺の門前に埼玉県指定史跡「中条氏館跡」の石碑が建っていました。周辺は田園地帯で一瞬、故郷の風景に出会ったような気持ちになりました。近隣からは「熊谷厄除け大師」として知られ、また、俳句がさかんなお寺のため「俳句寺」とも言われているようです。元々鎌倉幕府の武将の館跡に建つお寺なので、周囲の一部に濠や土塁が残っていました。境内は、緑に恵まれた環境のなか、本堂には、本尊「釈迦如来」が祀られており、屋根は今時珍しく茅で葺かれ、とても雰囲気のあるお寺でした。当然のことはいえ、寺の説明板や由緒書きを読んでも、残念ながら稗貫氏に係る記述はありませんでした。滞在は、一時間半程

度でしたが、いつかは訪ねてみたいと思っていた地でもあり、それがない、充実したひとときを過ごすことができました。そして、この地が我がふるさとである稗貫の地と悠久の歴史の中で繋がっており、歴史の運命に翻弄され続けた数多くの先人がいたのだと思うと、あらためて、色々と感慨深いものがありました。

平成18年1月1日、私達の故郷である稗貫郡石鳥谷町は、隣接の大迫町、東和町、花巻市との平成の大合併に伴い、行政地名としてあった「稗貫郡」という冠はなくなりました。市町村合併は、国の財政的、行政的な要請から行われたものでありやむを得ないこととは言え一抹の寂しさを覚えたことは事実です。

「稗貫」という名称は、平安時代以来千二百年以上も続く全国的にも珍しく、歴史的にも、文化的にも価値のある誇るべき遺産です。大迫町には「稗貫郡役所」を復元した観光施設があるようです。当然のことながら「郡役所(施設)」に関わる諸々についての説明もあると思います。この施設が「稗貫」という名称を後世に伝える機能も受け持っていただければと願うばかりです。



編集後記

広報部

上川 信行

「町人会だより」は町人会広報部を中心に会長、副会長の同席を頂き編集会議を開催しています。

編集会議は集まれば、各人の近況、会員の動向、故郷のニュース？など盛りだくさんの話題で盛り上がりです。約二時間ぐらいの編集会議の前半はこれでお互いの情報共有を図ります。

その後はやっと編集会議の本来の姿にもどり、レイアウトや写真、文章の文言がアーだこうだと激論を繰り広げるのであります。

最後は会長の「これで行くー」との一声で、無事終了。

その後は反省会で次回の企画を語り合うメンバーでした。



田んぼアート “ 注文の多い料理店 ”



広報部メンバーによる編集会議

在京石鳥谷町人会の  
ホームページ

在京石鳥谷町人会で検索できます。

是非ご覧ください。

皆様のご意見（掲載したい情報）をお寄せ下さい。

<http://zaikyoishidoriya.web.fc2.com/>

主な行事予定

- ◎ 在京石鳥谷町人会 総会・親睦交流会 11月5日(日) 上野精養軒
- ◎ 岩手県人連合会 賀詞交換会 1月末～2月頃 ホテルラングウッド(日暮里)
- ◎ お花見クルーズ 3月末～4月頃  
問い合わせ・佐藤 忠男 (090)3240-5821